

鶴野啓司展

窯変ようへんロツク

二〇二六年六月十一日(土) ～ 二十日(月)

会期中無休



料金後納
ゆうメール

鶴野啓司展 窯変^{ようへん}ロック

二〇一六年六月十一日(土) ～ 二十日(月) 会期中無休
 営業時間 十一時～十八時
 在廊日 六月十一日(土)・十二日(日)

鶴野啓司さんは栃木県益子町で、現地周辺（北関東）の原土にこだわり、薪窯による器を作っています。いわゆる益子焼と呼ばれる焼き物とは異なり、李朝期の器に通じる作行が基本となっています。しかし古典的なスタイルを再現することを目的とするのではなく、あくまで鶴野さんの拘る土と焼き方によって生み出される独自の焼き物と捉えた方が正しいでしょう。

あるラジオ番組で音楽家の坂本龍一さんが、ジミ・ヘンドリックスのギター演奏についてこう語りました。「譜面に書けない、クラシックでは表現できない。これこそロック」。ディストーションの掛かった音、狂ったチューニング、耳障りなハウリング。基本的なメロディーはあるものの、即興的に魂から湧き出る演奏は、既存価値を壊しながらも人の心の奥深くに突き刺さります。この言葉に鶴野さんは、自身の焼き物づくりに通じる思いを抱いたそうです。

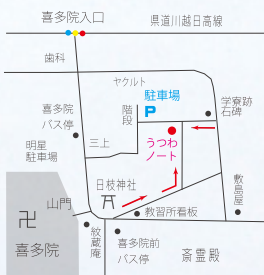
鶴野さんの器の特徴は、その焼き上がりにあります。安定を狙わず、窯焚きはその都度冒険的なチャレンジです。その先に起こる偶発的な自然性こそが、唯一の焼き物を創り出す。焼き物でしか表現できない色、質感、手触り。土と灰と炎が窯の中で奏でる「窯変^{ようへん}ロック」。これこそが鶴野さんの器の魅力です。

本展を依頼して実現するまで3年の月日を待たなければなりません。まだ良いものが出来ないからと、易々と個展を引き受けることもなく、益子という窯業地にいながら陶器市にも参加せず、ひたすらストイックに土や炎に向かっていく印象です。今回、粉引、鉄釉、藁灰、青磁、白瓷の器が並びます。様式に捕らわれず、鶴野さんの「窯変^{ようへん}ロック」を体で感じ、ご自身の知覚を突破して欲しいのです。

店主

鶴野啓司プロフィール

- 1967年 栃木県大田原市生まれ
- 1990年 大学卒業後、会社勤務
- 1994年 栃木県窯業指導所 修了
- 1994年 栃木県益子町にて独立
- 2016年 現在同地にて制作



- 電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
 本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
- バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
 駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]
- 車：ギャラリー専用の新駐車場は北側(5～8番)

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
 TEL 049-298-8715
 MAIL utsuwanote@gmail.com

